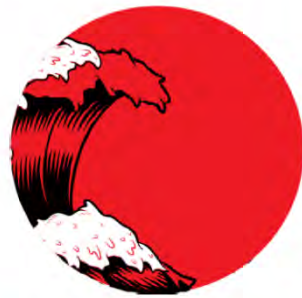


中部大学日本伝統文化推進プロジェクト

NIHON



BUNKA

— 2019年度活動報告書 —

報告書発刊にあたって

2019年4月から、中部大学日本伝統文化推進プロジェクトが始まりました。日本の伝統文化に親しむ機会の少ない学生たちに、ぜひともすぐれた本物の伝統文化を身近で触れてもらいたい、そうした飯吉理事長の意を受けての始動です。

もとよりこれまで中部大学で、伝統文化に関わる活動がなかったわけではありません。ただいずれも学科等の学内組織による個別の活動におわっていました。それを一定の理念のもと、計画性をもって運営する大学の文化プロジェクトにしていきたいとの思いがありました。何よりも大学は先進的な知を集積し文化の創造と発信をする拠点です。わが国には、先人たちが積み上げてきた文化の豊かな蓄積があり、それへの敬意をもって継承するのも、私たち大学人の務めでもあります。

本プロジェクトはいくつかの願いを込めております。まず何よりも、中部大学の文化性豊かな学風づくりに貢献すること、そして、学生たちが伝統文化に深い理解をもつ教養豊かな国際人として育ててほしいこと、さらに加えて、中部大学が地域の知の拠点として、外に向けて積極的に文化発信をしていくことであります。

活動初年度のこととて、企画運営にあたる私どもも試行錯誤の連続でした。これまでの本学での経験を踏まえつつ、新たな取り組みについても議論を重ねて、何とか一年を越えてきました。ここにその活動をまとめて報告書といたします。各位のご批正やご助言をいただけることを期待いたしております。

最後になりましたが、ご無理なお願いにも応えてくださった学内外の皆さまにあらためてお礼申し上げます。また本プロジェクトの活動を支えてくださった本学の教職員および学生各位にも、感謝申し上げます。

2020年3月

中部大学日本伝統文化推進プロジェクト長
副学長 辻本雅史

目 次

1. 活動記録	3
1.1 能楽鑑賞会 舞囃子『野宮』『葵上』	4
1.2 日本舞踊講演会 日本舞踊の伝統と革新	6
1.3 落語・講談鑑賞会 講談と落語の世界	8
1.4 歌舞伎講演会 「東濃地方の地芝居」	10
1.5 原田凍谷先生 書道展	11
1.6 日本伝統文化講座（古典文学研究、能楽・日舞お稽古）	12
[関連資料] 「ANTENNA」 46号	14
「ウプト」 212号	16
2. 会議記録	19
3. プロジェクトメンバー	20

活動一覧

■能楽鑑賞会 「舞囃子『野宮』『葵上』」

日 時：5月22日（水）15時20分～16時50分

場 所：三浦幸平メモリアルホール

講演者：久田勘鷗氏、久田三津子氏、他

参加者：316名（学生228名、一般58名、教職員30名）

■日本舞踊講演会「日本舞踊の伝統と革新」

日 時：6月26日（水）15時20分～16時50分

場 所：不言実行館アクティブホール

講演者：西川千雅氏、西川まさ子氏

参加者：169名（学生132名、一般21名、教職員16名）

■原田凍谷先生 書道展

日 時：10月23日（水）～11月30日（土）

場 所：不言実行館コモンズセンター

■落語・講談鑑賞会「話芸の世界」

日 時：11月6日（水）15時20分～16時50分

場 所：不言実行館アクティブホール

講演者：柳家花いち氏（落語）、旭堂鱗林氏（講談）

参加者：201名（学生170名、一般10名、教職員21名）

■歌舞伎講演会「東濃地方の地芝居」

日 時：12月4日（水）15時20分～16時50分

場 所：2811 講義室

講演者：安田文吉氏

参加者：102名（学生82名、一般9名、教職員11名）

■日本伝統文化講座（古典文学研究、能楽・日舞お稽古）

日 時：（春学期）毎週金曜日 13時35分～15時05分 計8回

（秋学期）毎週金曜日 15時20分～16時50分 計10回

場 所：2521 講義室、ダンススタジオ

講 師：岡本聡教授（6回）、久田勘鷗氏（6回）、西川まさ子氏（6回）

能楽鑑賞会

舞囃子『野宮』『葵上』

講 話 久田 勘鷗（シテ方観世流能楽師）

舞囃子 「野宮」久田勘鷗

舞囃子 「葵上」久田三津子（シテ方観世流能楽師）

5月22日（水）に三浦幸平メモリアルホールにおいて、久田勘鷗師、久田三津子師による能楽鑑賞会が行われた。

久田勘鷗師は名古屋観世会の代表であり、久田観正会を主宰される能楽師で、名古屋を拠点に活躍されている。本学における久田師の能楽鑑賞会は、2012年に日本語日本文化学科の行事として開催したのが始まりである。その後、人文学部の学部共通科目「グローバル人文学」や同学部他学科の「スタートアップセミナー」に組み込まれるようになり、今では人文学部の恒例行事となっている。



しかし、人文学部以外の学生たちは日本の伝統文化に親しむ機会が少なく、伝統文化に関わる活動がほとんど行われていない。そこで、2019年度からは日本伝統文化推進プロジェクトが中心となり、全学を対象とした能楽鑑賞会を開催することになった。

これまでの鑑賞会では、謡の体験、能面の解説、装束の着付け実演、お囃子の楽器紹介など、能楽についての講話やワークショップが行われてきた。今回も能面や装束についての解説があり、続いて『源氏物語』に題材をとった舞囃子「野宮」と「葵上」が上演された。

「野宮」は、六条御息所の霊が嵯峨野の野宮の旧跡に現れ、光源氏との恋を回想するという、夢幻能の代表作である。「葵上」は、六条御息所の嫉妬の生き霊が光源氏の正妻の葵上を苦しめ、鬼形と変じて法力と抗争するという、女性心理の深層に潜む嫉妬の恐ろしさを描いた名作である。



能楽が2008年にユネスコの世界無形文化遺産に指定されたことにより、学生たちには世界に誇るべき日本の伝統芸能という認識はあるが、多くの学生は今まで一度も能楽に接したことがなく、興味がなかったようだ。しかし、学生の感想文を読むと、今回の鑑賞会を機に関心をもつようになったという意見が多く、物の怪に苦しむ葵上を舞台に延べた1枚の小袖で表現する演出や、場面を際立たせる囃子方の演奏、能面の表情などに興味をもつ者や、六条御息所の心の揺れに共感する者などがいた。また、日本伝統文化講座に参加して能楽の指導を受けたいという学生もおり、有意義な鑑賞会であった。

日本舞踊の伝統と革新

講 話 西川千雅(日本舞踊西川流四世家元)

実 演 西川まさ子

2019年6月26日(水)、不言実行館アクティブホールにて、日本舞踊家西川千雅氏と、西川まさ子氏による講演会を開催した。

西川流は江戸時代中期に江戸で興った流派であり、日本舞踊の五大流派のひとつに数えられる。天保12年(1841)には、名古屋に移った西川仁蔵が初世西川鯉三郎を名乗り、名古屋西川流を創流した。講師を務められた西川千雅氏はその四世家元であり、姉の西川まさ子氏は家元補佐として活躍されている。

中部大学 日本伝統文化推進プロジェクト
人文学部 日本語日本文化学科 共催

日本舞踊の伝統と革新

日本舞踊西川流四世家元西川千雅氏の講話と、西川まさ子氏の実演による講演会を次とおり開催いたします。また、日本舞踊の(和)の動きをもとに創案されたエクササイズのご紹介もあります。

日時 二〇一九年六月二十六日(水)
午後三時二〇分〜四時五〇分

場所 中部大学アクティブホール(不言実行館一階)

講師

西川千雅氏
二〇一四年九月に西川流四世家元を継承。全国の門弟のご指導とともに、ミュージカル、歌舞伎、ドラマへのご出演、「あいち戦国姫隊」のプロデュース、「やっどかめ文化祭」のディレクターなど、多方面でご活躍中です。

西川まさ子氏
三歳のときに「名古屋をどり」で初舞台。二〇歳で師匠業を始め、数々の舞踊会に出演。現在、家元補佐を務め、若年層への日本舞踊の普及と、日本舞踊による国際交流に力を入れていらっしゃいます。

七月二日・九日に西川まさ子氏のご指導で日本舞踊の稽古をダンススタジオで行います。ぜひご参加ください。

【入場料】無料
【申込方法】一般の方は大学HP、メール、FAXのいずれかでお申し込みください。
学生は事前申し込み不要。
【申込期限】2019年6月21日(金)

申込・問合せ先
日本伝統文化推進プロジェクト事務局(人文学部事務室内)
TEL 0568-51-4144 / FAX 0568-52-0622
E-mail: jnbun@off@chubu.ac.jp
URL: www.chubu.ac.jp

西川千雅氏は、幼稚園より高校まではアメリカンスクールで学び、その後、ニューヨークの美術大学に留学された経験があり、また舞踊のほか、舞台、ドラマにも出演され、様々なプロデュースを行うなど、伝統芸能である日本舞踊の世界では異彩を放つ存在である。そこで、伝統芸能における将来への展望について、西川氏ならではのお考えを伺いたく、「日本舞踊の伝統と革新」と題する講演会を開催することになった。



講演会は、西川氏の甥である西川カーク氏（西川まさ子氏長男）主演の動画紹介から始まった。これは「THE ART OF AMAZING 4K FILM COMPETITION 2014」においてグランプリを受賞した作品で、歌舞伎の「連獅子」における白頭の舞い姿と、隈取りの逆再生で映し出された素顔との対比が実に印象的だった。西川氏はこのフィルム

を導入として話を歌舞伎から日本舞踊へと展開され、その優美で繊細な動きや表現技法について、西川まさ子氏の実演を交えながら説明された。初めは神妙に聞いていた学生たちであったが、西川氏の軽妙な語り口で、会場は明るい雰囲気包まれた。

講演会の後半では、日本舞踊の所作をもとにしたエクササイズが披露された。これは、西川流三世家元西川右近氏によって創案されたもので、現代人に必要な有酸素運動・筋力トレーニング・ストレッチがバランスよく配されたエクササイズである。西川流ではこれを NOSS (NIHON・ODORI・SPORTS・SCIENCE) と命名し、その普及活動に努めている。会場では参加者全員が立ち上がり、西川氏の指導の下にエクササイズを試みた。その動きは、着物姿であったなら、日本舞踊のようでもある。短時間ではあったが、リフレッシュの効果は十分にあった。高齢化社会にあっては、健康増進・維持にも役立つであろう。



伝統文化は先人からの遺産である。これを受け継ぐことは、精神的なあり方をも継承することになり、非常に意義深いことである。しかし、変化する現代社会の中で頑なに旧態を維持しようとするれば、先人の遺産も消耗し、疲弊してしまうおそれがある。伝統を保持するには、その時代の社会性や、将来への展望を意識することが大切である。このような視点からいえば、西川流の NOSS は、日本舞踊の発展、普及に新たな可能性をもたらすものといえよう。

参加した学生の大半は、今まで日本舞踊に関わったことがなく、伝統芸能を敷居が高いもの



のと思っていたようであるが、今回の講演会とワークショップで認識を改めたようである。更に、西川まさ子氏による本学での稽古を希望する学生もあらわれ、喜ばしいことである。

講談と落語の世界

第一部 講談の世界 旭堂鱗林 「藤井聡太物語」

第二部 落語の世界 柳家花いち 「だくだく」

2019年11月6日(水)、不言実行館アクティブホールにて、講談師の旭堂鱗林さんと落語家の柳家花いちさんを迎え、日本の伝統話芸の公演会を開催した。



中部大学日本伝統文化推進プロジェクト
NIHON BUNKA
日本文化を学ぼう!

—日本の伝統話芸—
講談と落語の世界

2019年
11月6日(水)
15:20 ~ 16:50
(受付 15:00 ~)
不言実行館アクティブホール

一演目 「太閤記」より
「日吉丸の誕生」

旭堂鱗林 きょくどう・りんりん

〈プロフィール〉幼稚園教諭、ブライダルコーディネーターを経て、1999年に東海ラジオレポートドライバーとしてタレント活動をスタート。2006年から上方講談師旭堂南麟の講談道場に通い、3年後に南麟一門として「古池鱗林」の名で活動を始める。2017年に旭堂一門となつてからは「旭堂鱗林」。2018年に大阪での前座修業を終了し、現在、講談師として大須演芸場などで活躍中。なみはや講談協会、関西演芸協会所属。



第一部
講談の世界

第二部
落語の世界



一演目
「だくだく」(予定)

柳家花いち やなぎや・はないち

〈プロフィール〉2006年に柳家花縁に入門し、翌年に前座となる。前座名は「花いち」。2010年に二ツ目昇進。柳家花縁の4番弟子。古典落語に加え、花いちワールドが炸裂する自作の新作落語も手がける二刀流。日々古典を磨く傍ら、毎月新作のネタおろしをするなど、精力的に勉強を重ねている。自作の新作に「狸の紹介」「宿へゴースト」「aiko」など。令和元年第30回 北とびあ若手落語家競演会奨励賞を受賞。



中部大学

申込み・お問合せ先 日本伝統文化推進プロジェクト事務局(人文学部事務室内)
〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200 TEL.0568-51-4144 E-mail: jinbun@office.chubu.ac.jp

旭堂鱗林さんは、上方講談協会に所属する講談師で、名古屋の大須演芸場などで活躍されている。出演を依頼したとき、演目は『太閤記』の「日吉丸の誕生」であったが、公演会直前の打ち合わせで創作講談「藤井聡太物語」をお願いすることになった。急な申し出にも関わらず快諾してくださり、会場の参加者にも了承していただいた。



「私はねえ、あの子に傘貸したんだでねえ」と、地元ならではの名古屋弁による自慢話から始まり、藤井七段が将棋棋士になるまでのエピソードを講談の語り口で披露され、会場は熱気の中でも終始和やかな雰囲気にも包まれていた。



柳家花いちさんは、柳家花緑を師匠とする江戸落語のホープである。東京都北区文化振興財団が主催する第30回北とぴあ若手落語家競演会において奨励賞を受賞されている。古典落語に加え、自作の新作落語も手がけているが、今回の演目は古典落語の「だくだく」であった。これは、家財道具の一切を

古道具屋に売ってしまった男が、引っ越し先に何もないため、壁、床、天井に白い紙を貼り、近所の画家に豪華な家具や日用品などを細密に描いてもらうが、夜更けに泥棒が忍びこみ、絵とは知らずに盗もうとする話である。枕、本題、下げという構成の本格的な落語を披露していただいた。

当日実施したアンケートによれば、参加した学生のほとんどが初めて生の講談、落語を聞いたという。参加してよい経験をした、またこのような機会をもうけてほしいという意見も多く、この公演会を機に話芸に少なからず関心をもってもらえたようであった。

歌舞伎講演会 「東濃地方の地芝居」

安田文吉（南山大学名誉教授、東海学園大学特任教授）

12月4日（水）に2811講義室において、安田文吉氏による「東濃地方の地芝居」と題する講演が行われた。講演では、南山大学や、東海学園大学で行われている学生歌舞伎のありさまなども紹介しながら、東濃地方の地芝居の話を中心に、時には自らの幼少期の日本舞踊や常磐津の稽古などの話もからめてお話しされた。安田文吉先生のキャラクターや軽妙な話術に負うものもあるのだろうが、学生達の反応は良かった。特に、同世代の学生達が、卒業論文の代わりに歌舞伎をするという南山大学や東海学園大学での試みが興味深かったように感じられた。



原田凍谷先生 書道展

書の小作品を部屋に飾りたい。

今回は前回に続き「書と色彩」をテーマに、日本的美の漆塗りから額全体を塗りで作り、シンプルで素材の良さが伝わるものを制作いたしました。

各自で設計した額です。自分の作品は額装も含めて自分の作品の完成を目指します。

これまで今の生活空間に合う、表現・表具を求めて、種々な取組みを続けてきました。

家具とのコラボレーションやオランダ・デンマークの国をテーマにしたインテリア演出等、自分の作品のイメージに合う表具を作者自らが作ることを挑戦しています。

筆の毛の活躍を古典から学び、腕、手首、指の動きを自分の中に取り込むことで各々の運筆が、深まっていくと信じます。会場にお越しいただき、ご観覧ありがとうございます。

この展覧会を研鑽ある心の糧にしてこれからも「今欲しい書」を求めていきたいと思えます。

令和元年十月吉日 原田凍谷

(当日のごあいさつ、原文のまま)



日本伝統文化講座

春学期、秋学期を通して、ダンススタジオにおいて、「日本伝統文化講座」の一環として、能楽と日本舞踊の稽古が開催された。全学に向けて開講した。春学期は四十人前後の学生が参加したが、秋学期は授業などと重なってしまい、十人を切る人数で行われた。2020年度からは、「日本の歴史と文化」という授業の中で、全学の学生に向けて、同様の日本伝統文化講座を実施する予定である。

2019年度春学期

5月10日	13:35～15:05	古典文学研究会	岡本聡氏	2521 講義室
5月24日	13:35～15:05	古典文学研究会	岡本聡氏	2521 講義室
5月31日	13:35～15:05	能楽の稽古	久田勘鷗氏	ダンススタジオ
6月7日	13:35～15:05	古典文学研究会	岡本聡氏	2521 講義室
6月14日	13:35～15:05	能楽の稽古	久田勘鷗氏	ダンススタジオ
6月21日	13:35～15:05	古典文学研究会	岡本聡氏	2521 講義室
6月28日	13:35～15:05	能楽の稽古	久田勘鷗氏	ダンススタジオ
7月5日	13:35～15:05	日本舞踊の稽古	西川まさ子氏	ダンススタジオ
7月12日	13:35～15:05	日本舞踊の稽古	西川まさ子氏	ダンススタジオ
7月19日	13:35～15:05	天文台ツアー	井上徳之氏	天文台

2019年度秋学期

9月27日	15:20～16:50	古典文学研究会	岡本聡氏	2531 講義室
10月4日	15:20～16:50	日本舞踊の稽古	西川まさ子氏	ダンススタジオ
10月11日	15:20～16:50	日本舞踊の稽古	西川まさ子氏	ダンススタジオ
10月18日	15:20～16:50	能楽の稽古	久田勘鷗氏	ダンススタジオ
11月8日	15:20～16:50	古典文学研究会	岡本聡氏	2531 講義室
11月15日	15:20～16:50	日本舞踊の稽古	西川まさ子氏	ダンススタジオ
11月22日	15:20～16:50	能楽の稽古	久田勘鷗氏	ダンススタジオ
11月29日	15:20～16:50	日本舞踊の稽古	西川まさ子氏	ダンススタジオ
12月6日	15:20～16:50	古典文学研究会	岡本聡氏	2531 講義室
12月13日	15:20～16:50	能楽の稽古	久田勘鷗氏	ダンススタジオ

日本伝統文化講座

日本舞踊お稽古

中部大学ダンススタジオにおいて、春学期、秋学期を通して、西川流家元代理西川まさ子先生によって、日本舞踊のお稽古が行われた。最初は、正しいお辞儀の仕方から始まり、着物の着方なども教えていただいた。秋学期の終わりのころには、一曲を通して踊る事が出来るようになった学生達もいた。



能楽お稽古

中部大学ダンススタジオにおいて、春学期、秋学期を通して観世流能楽師の久田勘鷗師により、能楽のお稽古が行われた。「猩猩」について、舞と謡の実践的講義が行われた。



ANTENNA

2019.10

No. 146

学 校 法 人
中 部 大 学



中部大学フレッシュマンキャンプ



中部大学第一高校「一高祭」



中大連携講座



中部大学春日丘高校体育祭



中部大学春日丘中学校合唱コンクール

CLOSE UP

Build, Learn, and Fly

— 飛行機を作って学ぶ新しい航空人材育成 —

伝統文化推進プロジェクトの始動

「東京事務所」から「東京サテライトオフィス」に名称変更しました

ACCADEMIA

次世代固体酸化燃料電池用新規空気極材料の開発

— 稼働温度を200℃低減へ —

IPMで作物の収穫量を増やす持続的食糧生産の実現を目指す

筋肉の収縮を説明する数理モデルを開発

— 1つのモデルで人と昆虫の横紋筋の動きを再現 —

気圧の変化を感じる場所が内耳にあった

— 気象病や天気痛の治療法応用に期待 —

私の一ドラマ

海外ドラマで異文化を知る

WAVE

昭和～平成～令和 新時代へ…

MY NOTE

新しい会計報告パラダイムシフト

— 「会計の終焉」を乗り越えて —

私の授業づくり

学生をアシストする「問いかけ」

— 「日本語スキルA」を通して —

コラボ

図書館サポーター

— 学生協働による図書館の魅力UPプロジェクト —



伝統文化推進プロジェクトの始動



中部大学 副学長 辻本雅史

2019年4月から、飯吉厚夫理事長の意を受け、「中部大学日本伝統文化推進プロジェクト」が始動した。そのために「推進委員会」を設置、山田公夫理事を顧問に迎え、人文学部や工学系の教員の協力も得て、事務は人文学部事務室が担っている。

なぜいま、日本伝統文化なのか

中部大学には、日本の伝統文化に関わる公認の学生クラブ活動に、茶道部・書道部・将棋部がある。それに運動系のクラブを加えても、伝統文化に十分に親しんでいるとはいいいにくい。本学は、工学系大学のDNAを継承した要素もあり、伝統文化にまで目が向きにくい面があるのかもしれない。しかし「伝統文化離れ」現象は本学だけの現象ではなく、今の若者に通底しているようだ。グローバル化の時代、もう古い日本文化などは用済みなのだろうか。

大学は先進的な知を集積し、文化の創造と発信をする拠点である。人間的魅力に満ちた豊かな教養人育成という大学の使命を考えれば、学生たちに本物の文化に触れさせることも大学の使命である。

日本の「伝統文化」といえば、能楽、日本舞踊、歌舞伎、茶道、華道等が想起されよう。それらはもちろん歴史の中で洗練され時代を越えて根付いてきた誇るべき伝統文化に違いない。

いまグローバル化が、地域の足元から進行している。異文化体験が日常化しているといってもよい。異文化に触れた時、私たちは、「自分はいったい何者か」が問われてくる。今の私たちは、祖先から積み上げられて

きた文化の延長上にあり、それが目に見える形で示されているのが、こうした「伝統文化」に他ならない。伝統文化は「過去の遺産」だから大事なのではない。今の私たちの感じ方や考え方、身のこなしから言語活動まで含めて、目に見えるか否かを越えて、今の私たちを作っているすべてが「伝統文化」と考えてよい。地球一体化が進めば進むほど、日本とは、日本文化とは何か、それが問われてくる。国際社会の中でそれを説明できなければ教養人とみなされることはない。いま、学生たちに本物の伝統文化に接し自ら体験してもらいたいと願うゆえんである。

伝統文化を体験する

茶道を例に考えてみよう。茶道は喫茶という単純な行為でありながら、そこにはさまざまな設えがある。茶室という建築空間、床の間の掛軸(書画類)や生花、茶碗・茶筌等の工芸品、菓子、そして詳細な礼儀作法など身体で表現される決まり事とその型、もてなしの心の構えから深い禅の精神にいたるまで、あらゆる伝統文化が凝集して込められている。それは身をもって体験することで理解できる。だから学生が自ら体験することが何よりも大事である。

すでに5月には「能楽鑑賞会」を開催、名古屋の観世流能楽の第一人者で

重要無形文化財保持者の久田勘鴨先生かんおうの講演と演能が行われ、334人の参加を得た。6月には「日本舞踊の伝統と革新」と題して、世界を舞台に活躍中の西川流四世家元・西川千雅先生あづまさと西川まさ子先生による日本舞踊講演会とワークショップを行い、169人の参加を得た。その後、久田先生と西川先生には、学生に定期的にお稽古をつけていただいている。これがクラブ活動に繋がっていくことを願っている。

秋学期にもいくつかの活動を企画している。大学祭前後に、書家の原田凍谷先生(人間力創成総合教育センター講師)の作品展、11月6日に落語家柳家花いち先生きよくろうりんと講談師旭堂麟林先生あしたを招いた落語・講談鑑賞会、12月4日に歌舞伎や常磐津節研究で著名な安田文吉先生(南山大学名誉教授)の講演が決まっている。その他に、殺陣、百人一首、俳句等、多彩な企画を検討中である。

本学は春日井市で唯一の大学で、また東濃地区まで広げて存在感のある大学である。まさに「知(地)の拠点」として、伝統文化の創造と発信にも努め、先人たちが育んできた本物の文化を学生たちが身に付け、教養豊かな国際人に育ってほしい、そうした願いを込めて、日本伝統文化推進プロジェクトをより一層、進めていく。期待していただきたい。



能楽鑑賞会



日本舞踊講演会

中部大学通信



SINCE 1967



No. 212

November 2019

学校法人中部大学

学校法人中部大学は2018年12月、
創立80周年を迎えました。

ウプト

w p w t



ウプトとは、古代エジプトのヒエログリフ
(象形文字の一種)で、「伝達する人」の意
味。エジプト古王国の碑文などに見られ、
19世紀初めにフランスのシャンポリオンが
解読している。



特集

11月2日に行われた4時間自転車耐久レース

Hack U 中部大学を Yahoo! JAPANと開催

TOPIC

日本伝統文化推進プロジェクトが始動

2019年度春学期から「日本伝統文化推進プロジェクト」が始まりました。

このプロジェクトで学生は、さまざまな伝統文化に触れ、体験もしていきます。

5月には名古屋観世流能楽の第一人者で重要無形文化財保持者の久田勘助先生による能学鑑賞会が行われ、

6月には日本舞踊の西川流四世家元の西川千雅先生と西川まさ子先生による講演会とワークショップが行われました。今回は、プロジェクト委員長の辻本雅史副学長、委員の岡本聡教授(日本語日本文化学科)と、

6人の学生がプロジェクトの意義や活動内容、プロジェクトの今後について話しました。



渡邊俊介さん
日本語日本文化学科1年

伊藤優磨さん
日本語日本文化学科1年

山口裕加さん
日本語日本文化学科1年

高久彩音さん
日本語日本文化学科1年

小山真由さん
日本語日本文化学科1年

小林智春さん
日本語日本文化学科3年

辻本雅史 教授
副学長、プロジェクト委員長

岡本聡 教授
日本語日本文化学科

岡本 はじめに、辻本先生からこのプロジェクトの趣旨をお話しただきたいと思います。

辻本 大学は、地域における知の拠点ですから、文化の創造と発信をしていく拠点でもあります。その意味で、大学は伝統文化を発信する役割を担っているわけです。そのために皆さんには、本物の文化に触れて、体験し、体験したことを語る人間になってほしいと思います。飯吉厚夫理事長、総長の発案でこのプロジェクトが始まりました。

最近の学生たちは、日本の伝統文化に触れる機会が少ないようです。グローバル化するほど、日本の伝統文化をより自覚的に私たちは感じていく必要があると思います。日本文化を知り、それを説明できるようになれば文化だけでなく、自分自身が何者であるか分かるようになります。異文化が鏡になり、そこに自分が映っているわけです。今まで自分が何気なくやってきたことが、その鏡を通すと、日本だけのものか考え方だったり、習慣だったりすることが見えてくるわけで、いわば自分発見のための作業ということにもなります。

小林 私もこのプロジェクトの意義について二つ考えました。一つ目は、日本古来の精神を伝統文化を通して学ぼうということ。二つ目は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの参画プログラムに能が認定されたことで、今このタイミングで日本の能をはじめ、伝統文化に触れることが重要だと思いました。私たちが学び、社会に発信していくことができると思います。

岡本 今後の方針として、日本固有の伝統や文化に関する教育の充実が図られます。しかしそれを十分に教えることができる人材がいけないということで、今後を見越した動きとも言えると思います。それは、これまでの講演や、お稽古を体験していかがでしたか？

山口 伝統文化は近寄りたいたいと思ってはいたのですが、日本舞踊の先生に、「他の踊りと同じように考えてみて」と声を掛けていただき、かしまらずに体験することができました。先生の踊りがき

れいで、姿勢など、日本人としての美意識も教えていただき、ためになる時間を過ごせました。

渡邊 はじめは、能や日本舞踊のことはよく分かっていませんでした。でも、能と日本舞踊の体験で「すり足をした時に、中学校3年間やってきた剣道と根底にある身のこなしは同じだと気付いたのは発見でした。

伊藤 僕も伝統文化に触れる機会が今までなかったのですが、どういふものなのか詳しくは知りませんでした。でも、能の公演を見せていただいたときに、般若の面を先生がつけた瞬間、雰囲気ガラッと変わって、ちよつと怖いという印象を受けました。そこには日本人として、どういふものを怖いと感じるかが備わっているのだと思います。

小山 私は能と日本舞踊を体験して、食わず嫌いをしないでほしいということをお願いしていました。実際に稽古を体験してみると、二つの所作に意味があり、その意味を理解しながら踊っていくととても楽しいです。

小林 能も日本舞踊もそれぞれの動きに意味があることが分かったので、今後見る機会があったら、もっと楽しめるのではないかと思います。以前より親近感が湧きました。

岡本 日本伝統文化推進プロジェクトには、井上徳之先生(超伝導・持続可能エネルギー研究センター教授)や高丸尚教先生(ロボット理工学科教授)など理系の先生方もメンバーに入っています。文理融合のプロジェクトとして進められています。その一環で天文台に行きましたが、いかがでしたか。

山口 最近理系の事柄に触れていなかったのですが、3Dプラネタリウムで宇宙を見ることができて新鮮でした。

伊藤 理系科目が苦手だったので、ずいぶん離れていましたが、星座が季節や方角を表すためにも使われているのは、十二支や十干にもつながるものだと思います。これまで敬遠してきた理系分野でしたが、改めて興味を持つことができたので良かったです。

小林 もともと宇宙や星に興味がありましたが、文系ではそうし

た勉強はできないと思っていたのでうれしかったです。また、2年生の時に「地球を観る」という講義を受けまして、その時に学んだことが出てきて良かったです。

辻本 秋学期にもいろいろ企画しています。落語講談などの語りの伝統文化です。それから「殺陣」を、小川順子先生(ミニニケーション学科教授)にお願いして、講演と実演がかなうといいなと思っています。また、百人一首もやりたいですね。言葉は文化を凝縮した二つの結晶体だと思いますから。

岡本 今後こんな講座があったら良いと思うのは何でしょうか。

高久 中学生の時に、和太鼓部に入っていたので、和太鼓を使つた



企画があると良いと思います。

山口 古画模写をしてみたいです。竹久夢二美術館と横山大観記念館に行ってきたのですが、絵画の世界にあまり縁がないので、模写体験してみたいです。

渡邊 僕はぜひ書家の原田凍谷先生(人間力創成総合教育センター講師)の書道を学びたいと思っています。

伊藤 中部大学は自然が豊かなので、動物でも植物でもいいのですが、そうしたものに關しての講演などをしていただいて、感性や美的感覚を磨くものがあればいいと思います。

小山 伝統文化に触れるツアーをしたら楽しそうですね。美術館

に行ったり、例えば能の中に出てくる建物だったり、関連したものを巡るツアーがあれば楽しいし、理解も深まると思います。

小林 高校の時に茶華道部があって、七夕の時期に部活動にお茶会と呼ばれて、お茶をたててもう機会がありました。大学にも茶道部があるので、気軽に伝統文化を感じられる企画があると良いと思います。

辻本 中部大学には、千利休の茶室を復元した「工法庵」や岡田憲久先生(名古屋造形大学特任教授)設計の庭園など、伝統文化を感じられる場所がありますね。それから、キャンパスのあちこちに絵やフロンズ像が飾られています。つまり本学には、文化的なもの、人間の感性を刺激していく仕掛けがたくさんあるわけです。その延長線上に、このプロジェクトもあります。

岡本 今後日本伝統文化推進プロジェクトを広めていくために良い方法がありますか？

高久 ポスターを作つて、実際に何人かの学生が、正門の前で呼びかけて、このプロジェクトについて広報しても良いかもしれません。

山口 自分のInstagramやLINEにアップすると良いと思います。友達など身近な人からの発信だとやってみようかなって思うような気がします。全学部全学科の学生に講座を受けてもらいたいです。

渡邊 ポスターやパンフレットに、プロジェクトの意義や、春学期に行った講座の様子、みんなの感想も載せれば関心を持つ人も増えるのではないのでしょうか。

小山 私も山口さんと同じ意見で、SNSをもっと利用すると良いと思います。

辻本 皆さんにも魅力的に広報していただいて、最終的にはクラブ活動として全学生に広げていけるよう努力していきたいですね。文化の香り豊かな中部大学にしていきたいものです。さしづめ皆さんはその文化大使ですよ。

岡本 それでは時間になりましたので、終わります。

一同 ありがとうございます。

会議記録

(準備会)

第1回日本伝統文化推進プロジェクト準備会会議

日 時：2018年12月14日(金) 15時30分から16時30分

第2回日本伝統文化推進プロジェクト準備会会議

日 時：2019年1月17日(木) 16時から17時

第3回日本伝統文化推進プロジェクト準備会会議

日 時：2019年2月22日(金) 10時から11時30分

第4回日本伝統文化推進プロジェクト準備会会議

日 時：2019年3月22日(金) 13時30分から14時30分

(2019年度プロジェクト会議)

第1回日本伝統文化推進プロジェクト会議

日 時：2019年4月26日(金) 13時30分から14時40分

第2回日本伝統文化推進プロジェクト会議

日 時：2019年5月10日(金) 15時30分から16時30分

第3回日本伝統文化推進プロジェクト会議

日 時：2019年6月14日(金) 15時30分から16時30分

第4回日本伝統文化推進プロジェクト会議

日 時：2019年7月26日(金) 15時30分から16時30分

第5回日本伝統文化推進プロジェクト会議

日 時：2019年10月1日(金) 15時30分から16時30分

第6回日本伝統文化推進プロジェクト会議

日 時：2019年11月8日(金) 17時から18時

第7回日本伝統文化推進プロジェクト会議

日 時：2020年1月22日(水) 14時から15時

第8回日本伝統文化推進プロジェクト会議

日 時：2020年2月28日(金) 10時30分から11時30分

第9回日本伝統文化推進プロジェクト会議

日 時：2020年3月19日(木) 13時30分から14時30分

プロジェクトメンバー

辻本 雅史	副学長
山田 公夫	理事・総長補佐
高丸 尚教	工学部ロボット理工学科教授
永田 典子	人文学部日本語日本文化学科教授
岡本 聡	〃
三浦 陽一	人文学部歴史地理学科教授
井上 徳之	超伝導・持続可能エネルギー研究センター教授
垣立 昌寛	大学事務局次長・学生教育部長
永平 三喜	人文学部事務室事務長
人文部学部事務室	(プロジェクトの庶務)

日本伝統文化推進プロジェクト 2019 年度活動報告書

2020 年 6 月発行

編集・発行 中部大学日本伝統文化推進プロジェクト

〒 487-8501 愛知県春日井市松本町 1200 番地

中部大学人文学部事務室



中部大学